

JAPAN – TAIWAN BASEBALL

INTERNATIONAL SYMPOSIUM

能高団、KANO から王貞治、WBC まで
日台野球交流 100 年の回顧と展望

2026年 3月6日 ^金 10:00
-17:00

場所

大阪大学箕面キャンパス

外国学研究講義棟 1 階大講義室

大阪府箕面市船場東 3-5-10

北大阪急行線箕面船場阪大前駅下車徒歩約 3 分

参加費

無料 (対面のみ)

事前申し込み

下記 QR コードまたは
<https://qr.paps.jp/jU3aA>

基調講演

周思齊 元台湾プロ野球中信兄弟選手、台湾球芽基金棒球發展協会発起人

「日本統治から今日までの台湾野球史を振り返るー原住民プロ野球選手としての視点から」

登壇者：謝仕淵 (台湾・成功大学)、松田京子 (南山大学)、林華章 (富邦ガーディアンズ)、野嶋剛 (大東文化大学)

主催

日台野球交流研究会、大阪大学人文学研究科台湾研究講座

助成

公益財団法人日本台湾交流協会

公益財団法人
日本台湾交流協会
Japan-Taiwan Exchange Association



INTERNATIONAL SYMPOSIUM

能高団、KANO から王貞治、WBC まで
日台野球交流 100 年の回顧と展望

PROGRAM

2026年3月6日^金 10:00 - 17:00

大阪大学箕面キャンパス

外国学研究講義棟 1 階大講義室

午前の部

9:30

開場

10:00

司会

小野純子 (金城学院大学)

12:00

主催者挨拶

林初梅 (大阪大学)

基調講演

周思齊 (元台湾プロ野球中信兄弟選手、台湾球芽基金棒球発展協会発起人)

「日本統治から今日までの台湾野球史を振り返る

— 原住民プロ野球選手としての視点から」

コメンテーター：謝仕淵 (台湾・成功大学)、野嶋剛 (大東文化大学)

午後の部

13:00

セッション 1

テーマ：日台間の野球人材交流

報告者：野嶋剛 (大東文化大学) 「呂、大豊、二郭一荘らと日本野球

— 1980-90 年代台湾選手の来日経緯と本人認識 —」

林華章

「私が日本のノンプロでプレーした理由」

(台湾プロ野球チーム富邦ガーディアンズ GM)

15:00

セッション 2

テーマ：台湾を変えた「野球」

報告者：謝仕淵 (成功大学) 「野球が台湾を「台湾」に変えるまで」

松田京子 (南山大学)

「台湾原住民野球チーム「能高団」

— 1925 年の「内地」遠征旅行を中心に」

登壇者略歴 (登壇順)

【周思齊】アミ族出身。プロ野球選手として 20 年間活躍し、現在は台湾師範大学台湾史研究所に在籍している。長年にわたり、先住民族の精神を行動で体現し、野球教育と文化の普及に取り組んでいる。民族の記憶とスポーツ史の交錯に目を向け、先住民集落から見た台湾野球史の新たな叙述方法を追究している。

【野嶋剛】大東文化大学社会学部教授、ジャーナリスト。元朝日新聞台北支局長。『ふたつの故宮博物院』『蒋介石を救った帝国軍人』『台湾とは何か』『日本の台湾人』などの著書がある。2026 年 2 月に日本と台湾で『野球と棒球 日台野球交流史』を刊行予定。中学生まで野球部で地元横浜のベイスターズファン。

【林華章】中華民国野球協会副理事長、アジア野球連盟 (BFA) 事務局長、野球殿堂会長を務める。台湾輔仁大学を経て、筑波大学で修士を取得。ロサンゼルスオリンピックで中華チームの銅メダル獲得に貢献し、バルセロナオリンピック銀メダル時にはコーチを務めた。第 1 回 WBC 中華台北代表チーム監督。台湾野球殿堂に名を連ねる。

【謝仕淵】現在、国立成功大学歴史学科副教授を務める。元国立台湾歴史博物館副館長、台南市政府文化局長を歴任。研究領域はスポーツとグローバル化の歴史、台湾物質文化史、飲食文化史など。代表著作として『台湾野球百年史』、『「国球」誕生前記：日本統治時代台湾野球史』を執筆。また、「逆転勝利：台湾野球特別展」、「百年の追求 - 嘉農野球 90 年回顧特別展」などの特別展の企画・監修も務めている。

【松田京子】三重県生まれ。大阪大学文学研究科博士後期課程単位取得満期退学、博士(文学)。現在、南山大学人文学部教授。主な研究業績として『帝国の視線 - 博覧会と異文化表象』(吉川弘文館、2003 年)、『帝国の思考 - 日本「帝国」と台湾原住民』(有志舎、2014 年) などがある。